

## 桜ヶ丘地区（桜ヶ丘ハイツ）懇談会での主な意見と回答

日 時 平成30年9月29日（土）午前10時～正午

場 所 桜ヶ丘公民館

出席者 26人

●市長による講演「可児市のじまんとほこり」の後、質疑応答が行われました。

・講話に関する意見交換

【意見】「可児」はなぜこの字なのかなどと思ったこともなかったが、まず疑問を持つこと、そして自分から調べようとする、歴史の事実に基づく推理や想像が大事だということで、可児の字は素敵な字だと改めて感じた。

当たり前の中に不思議な歴史や事実があり、そこから感動が生まれるということを学んだ。子どもたちに伝えていきたい。

【回答】全国市長会でも可児は「かし」や「かご」と呼ばれるなど、なぜこの字なのか不思議に思われますが、1300年前から続く歴史ある地名という説明をすると、大変関心を持たれます。ありがとうございます。

【意見】観光をPRしていくなら、道の駅が足りないのではないか。建設予定はあるか。

【回答】可児ッテのようなインター近く以外では難しいと思います。

西のほうには民間の湯の華市場がたくさんの人を集めていて、道の駅の役割を果たしています。可児には東西にひとつずつ道の駅のようなものがあって、このふたつ以上でやっていけるものはないと思います。湯の華は飛騨高山並みの人を集めています。可児の観光客が増えたのはほとんどが湯の華で、三峰さんも頑張ってみえますが、そういうところだけではなくて、もう少しそれを広めていきたいと思っています。

【要望】訪日外国人が増えていて、観光業が大きなポイントのひとつである。

外国人も最初は有名な所へ行くが、慣れてくるとだんだん細かいところへ行くようになる。観光業に力を入れていく方向性を持っていただきたい。

【回答】おっしゃるとおりで、有名な観光地は飽きてきて、日本の本物の文化に触れたいという観光客が増えてきています。ということは、そんなに目立たなくても、いい仕掛けがあれば来てくれます。ただ、外国の方が来るのはありがたいですが、それによって地域が荒廃するようなことは困るので、それなりの目的や意識を持ってきていただきたいです。そのターゲットとして、場所は久々利を考えています。世界の茶の湯の文化、山城、日本の料理、お茶、お花、また外国にはない自然、木曾川左岸などを売り出すことで、ファンが何回も来てくれる可能性があると思っています。それを随分磨いてきて、見える程度になってきたのでこれから仕掛けづくりです。外国人をお迎え、おもてなしする仕組みとして、市民のみなさんが歴史的な料理をつくる、などへ発展していきたいと思っています。常識のある外国の方に来ていただきたいです。

・各団体の活動内容報告と質疑応答

【質問】昨年の地区懇談会以降、太陽光発電をめぐる状況が変わってきたと思われるので、市によるガイドラインや条例の制定、国の立法の動向について見解を伺いたい。

【回答】まずはみなさんにお礼を申し上げたいと思います。太陽光発電については、法的なガイドラインなど基準が決められており、行政からそれを超えるような規制ができません。そんななか、住民のみなさんがまちづくり条例を背景にして、いろんな意見を言っていただく、強制力はないが業者が真摯にそれに応えていただく、それがこの地域で事業をやっていくためには不可欠という意識を持って協定を結んでいただく、これは民の力あってこそ協定にたどり着けるわけですから、この地域がそういった努力をしていただけるのはありがたいことと感謝をいたします。

条例ガイドラインについては、作ることはできますが、結局は国のガイドラインに基づいた建設をすれば許可されるので、業者側の厚意によって、より住民の皆さんの、あるいは市に合うものでやってもらうこと

しかないのです。それならば今の可児市のまちづくり条例に基づいた協議をお願いして、了解を取ってもらってすすめていくという形が効果的と考えます。ガイドラインや条例はできないことはないですが、それを作る効果はなく、法律で定められていること以上のものはできないので、国に法律そのもので条例に権限を与えてほしいという申し入れをしました。残念ながら現時点で動きはないのが現状です。

具体的に地域住民にとって、非常に危険性があるとか、景観を損なうとか、交通の支障があるなどのおそれがあれば、住民の被害防止という面から動けます。万が一そんな計画が出れば、条例根拠がなくても様々なかたちで市として動きますので、その場合は宣言条例として作るのかどうかということになります。

【意見】教育に対する今後の課題やすすめていきたいことを教えてほしい。

【回答】小学4年生くらいまでの今までの教育は少し知識に偏りすぎた傾向があります。日本の教育は戦後の復興をめざした高度経済成長期を支え、優秀な労働者をどう育てるか、受験戦争、就職戦争に打ち勝つための知識、私からみるとそんな教育だった気がします。

高度経済成長が終わり人口も減り、人間に代わってロボットが様々なことをやるようになり、そもそも本来の教育として子どもたちが社会で自分に自信を持って周りに思いやりをもって生きていく力をつけるには、知識よりも感性を重要視しないといけないと思っています。それを育てるのは学校だけではなく、地域の活動に積極的に参加し、いろんな世代の人の話を聞いて育つことが大事だと思います。小学校高学年から中学生にかけては感性をもとにいろいろな経験をする、大人にはいろいろな道があるということを知ってもらう。

従来は一流高校から一流大学、一流企業へというのが成功者でしたが、そうでない道もたくさんある。そうでない生活を送っている人もたくさんいる。自分にあった未来はどんなものかはそれぞれ違う。世界に羽ばたく人もいるし、地元に残って家の仕事を継ぐ人もいるし、勉強とともに、いろんな人に会って自分の道を考えてくれるようなチャンスや、それを目指すため必要な知識を身につける。という流れをつくっていかたいと思います。そして、コミュニケーションの取れる英語力も必要です。

大きな時代の流れとともに、どういった教育をすべきかという転換期に

あると思います。

【意見】 少子化対策と企業誘致で考えておられることがあれば教えてほしい。

【回答】 可児市は新しい企業誘致ができる場所が残り1カ所になりました。私としてはインター付近に新しいところを作るかどうかというところでは、

子どもたちを可児に戻す、可児から出て行かないように、わくわくワークという取り組みをしています。市内の企業がいかにみなさんを大切にしてくれるか、技術がすばらしいか、市内に勤める先輩が良さを伝えるという取り組みや、一旦市外に出て行っても戻りたいと思ったら仕事を探すなどの仕組みを作りたいです。

可児は製造業はあるが、本社機能がないので、名古屋にリニアが来ると東京へ集まってしまうのではないかと心配もあります。国が法律を変えて、地方に本社が移転した場合は税金を安くするとしてもほとんど効果がありません。

外国籍はこれから必要です。小さいうちに来てもらって国籍は日本ではないが永住する仕組みを作ろうとしています。県内に小中学生2,600人のうち600人が可児にいます。この子たちを一生懸命育てていますが愛知県の有名企業が採用してしまいます。

【意見】 ラジオ体操に来た子にはお菓子を配って楽しめるようにしているが、子ども会に入っていない子が来にくくなっているところがあるので、会費のことなどを含めて改善できないか。

【回答】 子ども会に入らないのは親ですが、結局困るのは子どもですから、子どもたちの成長を考えて市としても努力する必要があると思いました。  
私の認識では、自治会に入っていないなくても、子ども会に関してはどの子どもも同じように対応しているものと思っていましたので、ラジオ体操を含めて一度調べますが、市として呼びかけをすることは必要だと思います。

経費のほうは自治会報償費をご利用いただいて応援していただきたいと思いますので、よろしく願います。

【提案】高齢者の支援活動をボランティアで行っているが、ボランティアが集まらず、一部有償ボランティアの仕組みを取り入れている。

最近、ある介護認定者から500円は高いといわれた。介護保険でヘルパーさんにやってもらえば300円で済む。確かに介護保険から本人負担は300円だが、事業者に対しては3,000円払っている。この仕組みを続けると雇用保険がうまくいかなくなるのは目に見えている。

提案として、軽度の人の家事支援は事業者任せではなく、地域住民のボランティア活動に移行したらどうか。地域のボランティアで収入が得られるようにすれば地域の活性化にもなる。

高齢者の支援活動が充実してくればそれが評判になって可児市の価値が高まり市への転入が増えると思っている。「近きもの悦ばば遠きもの来る」もその仕組みにつながる。

【回答】ボランティアのあるところは移行できますが、介護保険という国の制度を無視したやり方はできないし、ボランティアの無い地域は国の制度が無くなれば困ってしまうので、その両立をどう図るかは非常に難しい課題だと思います。特にボランティアになる人そのものが減ってくるので、ボランティアに頼る仕組みはいつまでできるのかが不安です。

新たに始めたいと思ってるのがふるさと納税です。高齢者の子どもさんで市外で働いている方が、例えば年収500万円とすると、10万円ほどのふるさと納税をしても控除されるため、自分の負担にはなりません。その返礼が3割まで許されるので、その3割をふるさとに残している親のケアに使ってもらう、それをボランティアの皆さんが受けるという仕組みです。本来は親を見てもらうのが一番ですが、理由があって市外に出ている、面倒が見切れない人に、そういう制度を利用して、地域でその人たちの面倒を見るための財源にするという仕組みはあってもいいと思い、検討しています。解決にはなりませんが、少しでも支援になればと思っています。

いずれにしても難しい問題で、いろいろとご相談させていただきますので、よろしくお願いします。

【意見】中学校の生徒の自転車での登校と小学校の徒歩登校では、歩道が狭く危ないところがたくさんあるので、整備ができないか。

大森新田北側歩道の、喫茶店アズミノからガソリンスタンドまでのところが、雨が降るといつまでも水が染み出て車道まで流れている。斜面

がそのうち崩れたりするのではないかと心配している。市で調査などはしてくれるか。

【回答】市へは通学路については、通学路安全推進会議などから要望を出していただけてますし、合わせて自治連要望の中にも入っているものであれば、現場に職員が行って確認して、応急処置が必要なものはしています。ご連絡いただければ、必ず見て調べて検討します。市道27号では課題がいくつかありますので、できることからやっていきます。

【要望】櫛ヶ丘の道はいつ頃開通できるのかの見通しを聞きたい。

【回答】今のところ市で道路をつくる計画そのものはありません。元々は開発業者が造る予定でしたが、業者が無くなってしまいました。自治連から要望はいただけており、検討はしないといけないとは思いますが、いろんな課題があります。まず、あの道が万が一できたら太陽光発電だらけになる可能性が十分あります。開発業者さんは待っていますので、開発が起こります。道路がつながったら大森新田を避ける車が桜ヶ丘へ流入して交通量が増えます。桂ヶ丘の団地を回って入ってくる車もできますので、生活に対する影響がでてきます。道を造るのに10億くらいかかりますので、優先順位として、非常に混む道や27号の歩道を整備するとか、他の二ーズのある道と必要性を比べることもあると思います。

開発業者が開発事業の中で造られるのはやむを得ないですが、税金を投入して開発が進んで生活環境が脅かされるのは許されません。道路を造るマイナス面は非常に大きいので、慎重に考えて今のところ計画化をするつもりはありません。

【意見】私たち住民が行政、職員に求めているのは専門性、専門的な知見である。市長がこの8年で専門性としての職員力をどう向上させてきたのか。職員力を向上させるような仕組みをどのように考えているか。今の時代は成長型のまちづくりはもうありえない。今までの成長性は経済成長、人口増加、地価上昇の3点セットで都市は成長してきたというメカニズムがある。今成長から成熟への時に、市の方針にもある地域の課題解決をどう住民の力で、あるいは住民と行政の協働で作っていくのか、その仕組み、あるいは職員力を向上させる考えを聞かせてほしい。

【回答】まちづくり一般の専門性ということはやっていません。税や建築、福祉などの専門性に関しては現場や研修をしています。一般的な市民に対する接遇もありますし、職員として基本的に身につけるところ、それぞれの仕事を推進するうえでの専門性はやっております。まちづくりの範囲は広いので、その全般を考える専門的なことはやっていません。可児市の特徴のひとつに職員が少ないことがあります。人口がいきなり増えてそれに応じて職員は増やせず、その結果いい点は人件費が非常に安く済んでいて、それが市民サービスにまわせます。マイナス面は、職員を豊富に使えないので、仕事に必要な専門知識と全体を俯瞰できる職員を人事異動等で作っていくということです。全体を知っている専門家までの研修はやっていません。

まちづくりの相談の場合は、まずは担当の地域振興課の窓口に来ていただいて、その問題を聞いたなかでそれぞれの専門家が相談に応じます。課題によっては関係部局のそれぞれの専門家、担当が集まってみんなで調整をする体制にしています。